

「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会2021」開催

2022年3月9日(水)18時より、KKRホテル東京(瑞宝の間)において「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会2021」が開催された。当日は、都内にまん延防止等重点措置が発出されていたことから、ウェビナーを併用したハイブリッド形式での開催となった。代表世話人の鳥羽研二先生をはじめ、研究会の世話人・委員の先生方10名と、演者5名の計15名が参加して開催された。また厚生労働省をはじめとしたオブザーバーや会員会社などから175名、報道関係者13名の、合わせて188名が会場又はオンラインから参加した。



総合司会
【鳥羽研二 先生】

【提言書更新に基づく進捗報告】

研究会の冒頭では、日本東洋医学会・伊藤会長と、国立医薬品食品衛生研究所・袴塚生薬部長より、昨年2月に更新した本研究会の提言の進捗状況として

- ・新型コロナウイルス感染症に対する学会主導研究
- ・医療用漢方製剤の開発に資する承認申請ガイドライン
- ・原料生薬の安定確保に向けた国内栽培の推進

などについて説明があった。オンラインで参加された

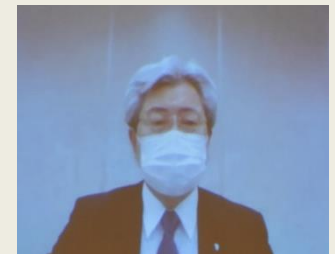
日本医師会会長・中川俊男先生からは「患者さんが必要とする漢方製剤は保険診療として投薬する必要がある。本研究会で提示されるエビデンスは、漢方の保険医療における必要性を主張するための拠り所となる」などのご発言をいただいた。



【伊藤隆 先生】



【袴塚高志 先生】



【中川俊男 先生】

【基調講演】

進捗報告に続いて、オンラインで参加された大阪大学の忽那賢志教授より、「新型コロナウイルス感染症の現状について」と題した基調講演が行われた。この中で忽那先生は、大阪府における現状に加え、現在流行の中心となっているオミクロン株、及びその変異株であるBA.2の特性についても詳しく解説された。第7波は思ったより早く来る可能性があるとして、ワクチンのブースター接種や、漢方薬を含む治療薬が重要であると説明された。



【忽那賢志 先生】

【講演】



座長
【秋下雅弘 先生】



座長
【堀江重郎 先生】

研究会世話人の東京大学・秋下雅弘教授、順天堂大学・堀江重郎教授が座長を務められた講演では、まず、大阪市立医療センターの青松直撥医長より、「集中治療を要した重症COVID-19治療における漢方製剤の有用性と題してお話しいただいた。青松医長は、重症COVID-19の人工呼吸管理戦略を紹介したうえで、それにプラス α として漢方薬の使用を検討され、補剤の中から気血両虚の薬方として人參養榮湯は治療の一助となる可能性を示された。



【青松直撥 先生】



また、広島大学病院の小川恵子漢方診療センター長からは、「漢方医学によるCOVID-19戦略」として、補中益気湯と葛根湯を用いた研究の成果が報告された。

補中益気湯と葛根湯は、免疫調整作用によってクラスター感染病院での医療従事者のCOVID-19の発症や悪化を予防した可能性があることが示された。

【小川恵子 先生】



福岡大学の鍋島茂樹教授は「麻黄湯とウイルス感染症」をテーマに講演を行い、傷寒論を出典とする麻黄湯はインフルエンザ、RSウイルスをはじめとした複数のウイルスに対して抗ウイルス作用が認められていることを報告し、今後、麻黄湯はどのような特徴を有するウイルスに有効なのか、また麻黄湯には複数の抗ウイルス分子があるため、ウイルスの変異にも対応できる可能性があるとして、

「抗ウイルス薬としての漢方薬を世界に広めることは可能はないか」とのご提案をもって講演を締めくくられた。

【鍋島茂樹 先生】

最後に講演に立たれた北里大学東洋医学総合研究所の小田口浩所長は、「COVID-19に対する漢方薬治療と新規生薬製剤研究開発の取り組み」と題し、現在同大学で進められている、エフェドリンアルカロイド除去麻黄エキス(EFE)の開発について、現状や今後に向けた期待・課題などを中心にお話しされた。この中で、EFEの有効性評価を行うPart2試験を2月中旬より開始していること、治験の遂行中、治験後の承認審査、承認後と、各段階において様々な課題があることが示された。



【小田口浩 先生】

講演終了後は、代表世話人の鳥羽先生、世話人の国立医薬品食品衛生研究所・合田所長を司会としてディスカッションが行われ、参加した先生方の間で、漢方薬の免疫に対する作用、ウイルスに対する作用機序、漢方薬の開発治験、生薬の安定供給についてなど、活発な意見交換・質疑応答が行われた。



司会
【合田幸広 先生】



【河本滋史 先生】



【小松かつ子 先生】



研究会終了後、20時過ぎより報道関係者を対象に記者会見が行われた。

記者会見には代表世話人の鳥羽先生をはじめ、世話人、提言書更新に基づく進捗報告をされた委員および本日ご講演をいただいた4名の先生にもご参加いただき、記者からも活発な質問が出された。